

進出企業が見た今 ②

交流 加深

しずおか

中国



社 沢根スプリング 長 沢根 孝佳さん

根社長が電子メールでの交流を提案したのがきっかけ。交流は〇二年に生徒の相互訪問に発展し、昨年は大橋中が浜松を訪れた。

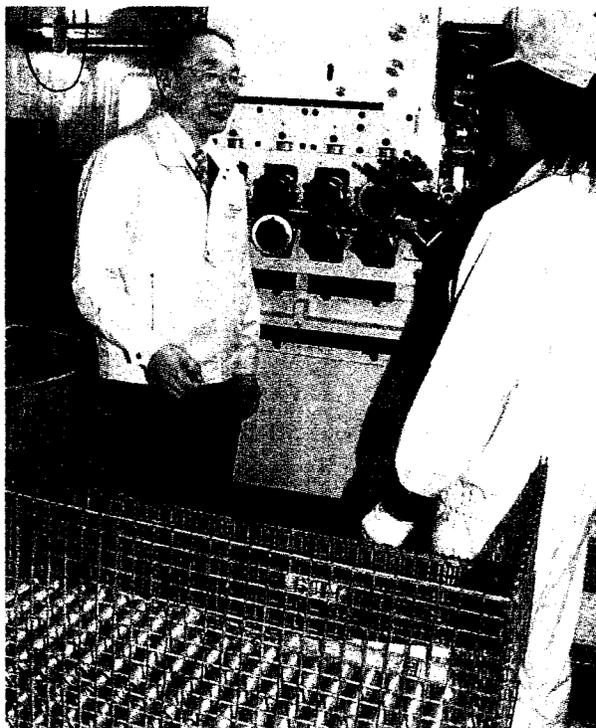
根社長は「将来国際社で生きていく上での考え方を身に付ける機会として生かして」と見守り、北京五輪に関しては「近い国だど、まわりの様相は急激に変化する中国を知るチャンス」と話す。

三階建ての合弁会社工場を両側で最近、三十階を超えるビル建設が進むなど、中国の自動車生産も拡大の一途。エンジン用ばねの需要も当面続く

各種ばねを製造する沢根とみられる。

だが、沢根社長は「自動車を卒業した中国人一人を採り、合弁会社の従業員社長は「日本人ももっと中国人も無理に相手に合わせることはない」と思う。

同社は今春、日本の大学は「こう思う」とはっきり主を卒業した中国人一人を採り、合弁会社の従業員社長は「日本人ももっと中国人も無理に相手に合わせることはない」と思う。興味は「五輪のマラソン競技を見に行きたいが、旅行代金が高騰していて難しい」と苦笑いする。



中国人と接し、「日本人ももっと意思表示すべきだ」と痛感する沢根社長(左)＝浜松市南区の沢根スプリング

考え方を知るチャンス

浜松市立新津中の生徒、教職員十六人が北京五輪開催中の八月二十日から三泊四日で、交流活動を続けている中国江蘇省無錫市の私立大橋実験中を訪ねる。交流の橋渡し役を務めたのは沢根スプリング(浜松市南区小沢渡町)の沢根孝佳社長(左)だ。

両校の交流は二〇〇〇年に始まった。沢根スプリングが無錫市に持つ合弁会社に勤める従業員の子供が大橋中に通っていて、当時新津中のPTA会長だった沢